

「ユネスコスクール」加盟校として歩む西浅井中学校 H27.1

このほど、私たちの学校がユネスコスクールとして認定されました。

そこで、 「ユネスコやユネスコスクールって何？」

「どんなことをしていくの？」

「どんな点で価値（値打ちがあるの？）

などについて、まとめてみました。

(1) ユネスコとは

国際連合教育科学文化機関のこと。英語でUnited Nations（国連） Educational（教育の） Scientific（科学の） and Cultural（文化の） Organization（機関）で、

頭文字をとって“UNESCO”となります。

国際連合(本部：ニューヨーク)専門機関の一つ。ユネスコの本部はパリ。

(2) 「ユネスコ憲章(けんしょう)」とは

ユネスコという組織が、「何をめざして」「どんな活動に取り組むのか」などを定めている取り決め。

その「ユネスコ憲章」第1条には、「ユネスコは、教育、科学及び文化に関する活動に取り組むことによって、『世界のさまざまな国で、人々が自由で平和で安全に暮(く)らしくていける』ことをめざす」と示されています。

(3) ユネスコスクールとは

ユネスコ憲章に示されたことを学校で実践(じっせん、実際に行うこと)するために1953年に創設(そうせつ)されました。世界180カ国で約9,000校が加盟して活動しています。

日本では、615校の小学校・中学校・高等学校などが加盟し(2013年9月現在)、いろいろな活動に取り組んでいます。

そして、西浅井中学校が昨年11月にユネスコスクールへの加盟が認められました。

滋賀県の中学校では、五個荘中、立命館守山中に続いて、ユネスコスクールとして認められたこととなります。長浜市の中学校では「一番乗り」です。本校と同じ時期に彦根市の西中・中央中もユネスコスクールに仲間入りしています。

(4) ユネスコスクールと西浅井中学校

西浅井中がユネスコスクールとして認められたのは、次のことが評価されたのだと考えられます。

①地域の方々と協力して、全校で山門湿原の保全活動に取り組んでいる。

* 山門湿原を守っていくことは、琵琶湖に生息(せいそく)する(生活する、生存するという意味)さまざまな動植物や美しい景観(けいかん、景色と同じ意味)を守ることに直結している

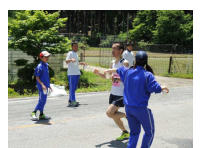


②ユネスコが呼びかけている「世界寺子屋」運動に賛同し、長年にわたって自治会生徒会が中心になって西浅井町の(ほぼ)すべてのお家を訪(たず)ね、「書き損じはがき回収」の活動を続けている。

* 中学生が地域の方々と協力して行っている「書き損じはがき回収」が、勉強したくてもノートや筆記具などが用意してもらえない国や地域に暮らす子どもたちをサポートする資金づくりに大いに役立っている

③多くの生徒が地域に出て、いろいろなボランティア活動に取り組んでいる。

* 誰かに言われてでなく、「みんな(地域)の役に立とう」の気持ちをもって自分から汗を流し、地域の方々と一緒(いっしょ)になってボランティア活動に取り組んでいる。その象徴的な例が「奥びわ湖健康マラソン」のボランティア。その他、長い時代を経(へ)て、今なお地域に引き継がれている歴史や文化財が多くあり、それらを学校で学び直そうとしている



(5)「ESD」とは

「ESD」は、略語(りゃくご、簡単に言い表す用語)です。日本語にすると「持続可能な発展(開発)のための教育」となります。

もう少し分かりやすく言えば、ESDとは、「私たちとその子孫たちが、この地球(世界)で生きていくことを困難(こんなん、むずかしいという意味)にするような問題~たとえば人間もふくめた生き物と環境(かんきょう)のつながりに関することや、私たちの生活と生態系(せいたいけい、自然環境そのもの)のつながりに関すること~について、体験活動もまじえて考え、立ち向かい、困難なことを解決しようとする学習活動です。

特に、最近では、ユネスコスクールは、「持続発展教育」(ESDのこと)に取り組むことに力を入れています。こう説明しても、なお複雑ですね。

最大限に省(はぶ)いてみれば、次のようになるかもしれません。

「人や動植物などのつながりに注目し、それ(つながり)がずっと長続きできる環境を大切にしていこうとする教育プログラム」がESDの柱である。

本校は、ずっと前からこのようなプログラムを持ち、大事にしてきたと言えます。ですから、「ESDのために何か新しいこと」をしなければならないということは、ありません。

今まで取り組んできたことを、これからも積み上げていけばいいだけです。

ユネスコスクール加盟校として認められたことは、西浅井中学校としてのこれまでの歩みと現在の活動に誇りを持ち、そしてこれからの活動に自信をもって取り組んでいいことを意味しています。

地域のこと、学校のこと、自分自身のことを誇って(自慢して)いいのです。

「地球規模でものごとを考え、自分たちの生活する地域で実際に活動しよう」(Think globally, act locally.)という言葉があります。

私たち西浅井中学校は、ユネスコスクールとして、これからも「変わることなく、変えることなく」地域の豊かな自然、長く続く地域の歴史や伝統文化に直接に学ぶ活動を続けていくことが大切です。

そのような取り組みが、さまざまにつながり合って、地球規模でものごとを考えることにまで広がっていきます。